

令和4年度事業・活動報告

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

【事業の成果】

3年間にわたる新型コロナ感染拡大の影響で旭川 NPO サポートセンターが指定管理をしている旭川市市民活動交流センターCoCoDe も、団体の様々な活動が自粛気味となり、利用者も減少しました。しかしながら、年度後半にはコロナ感染状況がやや収まり始め、徐々に活動が再開される動きがみられるようになってきました。オンラインでの会議や講座も一般的となっていており、ハイブリッド型の新たなスタイルでの活動が定着しつつあります。一方、NPO 法人が後継者不足や高齢化などで解散するという動きも目立ち、相談対応に忙しい一年でした。

また長年課題となっていました、新事業について今年度は西神楽の土地を借り、農福連携事業の準備を始めました。

■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



秋の CoCoDe まつり

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【事業内容・事業成果・課題等】

1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理について

- ① 利用件数 3,375 件、利用者数 39,167 名、利用料金 8,837,752 円。
(前年度 利用件数 2,426 件、利用者数 24,986 名、利用料金 5,764,913 円)。
- ② コロナキャンセル件数 112 件、キャンセル分利用料金 434,673 円
(前年度 コロナキャンセル件数 868 件、キャンセル分利用料金 2,959,924 円)
※参考まで今年度の減収補償は 431,847 円 (前年度 3,009,053 円)
- ③ 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

- ① 市民活動情報サイト登録 237 件 (前年度 233 件)
- ② 市民活動交流センター登録 (団体) 397 件 (前年度 374 件)

③ 市民活動交流センター登録（個人） 0件（前年度 0件）

3) 市民活動に関する情報収集・提供

① CoCoDe 通信の発行～毎月 1,000 部

② 利用者懇談会 6/23、11/18 実施 参加 6月-9名、11月-9名

前期と後期に分けて実施。前半期の実績報告と次半期の計画報告を行った。また、現在 CoCoDe が抱えている課題について利用者意見を伺った。

③ 助成金合同説明会 10/14 実施 参加 8名

小林董信基金と日本年賀郵便年賀寄付金の説明会。

④ CoCoDe トークサロン 8/24、10/25 実施 参加 8/24-8名、10/25-10名

・8月24日、当麻町で、有機栽培農場「ハーベストガーデン福山」にてハーブ栽培に従事されている、福山萌子氏を迎え、「命を繋ぐシゴト」のテーマでお話をして頂いた。

・10月25日、農業プロデューサーの脇坂真吏氏を迎え、「～地方に都会以上のきっかけを～東神楽大学の目指す未来とは」と題し地方創生等についてトークをしていただいた。

4) 相談・コーディネート

① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。

相談総数 112 件。(内訳：個人 38 件、市民活動団体 62 件、企業 12 件)。(前年度 93 件)

② 会計決算相談会 3/26 実施 参加 10名

佐藤はるみ税理士をお招きし、個別の団体毎に決算書類の見方、作成の仕方、抱えている課題等について相談があり、指導していただいた。

5) 学習機会の提供について

① 【旭川】気候変動×防災避難×SDG s 「風水害」避難ワークショップ体験会

9/22 実施 参加 13名

「風水害24」という避難シミュレーションゲームを通して、風水害にはどのような備えで、どのタイミングで行動が必要なのかを状況に合わせて学んでいき、周囲の家族や地域住民へどのように声かけしていくかをゲームを通して体感しました。

② 「しまった！」と後悔しないために、日常に潜むトラブル知っ得セミナー

・あなたの職場の労働関係点検してますか？ 1/14 実施 参加 15名

本セミナーでは有休や超過勤務、育児休業、3・6協定など、雇用関係にまつわる基本について、最新の法令をもとに、社会保険労務士の皆川あみ子先生からお話をお聞きした。

・あなた個人情報守られていますか？ 2/4 実施 参加 10名

大箸信之弁護士を講師に招き、個人情報とは何か、個人情報の取得／保有の事業者側／提供者側の両面から見た注意点。第三者提供と委託の違いについて、最新の情報を盛り込みながらお話しされた。

・インターネットトラブルに遭わないために！ 2/25 実施 参加 20名

酒井将平弁護士をお招きし、最近何かと話題になるインターネットトラブルについてお

話しいただいた。具体的には、インターネット上の誹謗中傷、子どもによるインターネット上の取引、大人によるインターネット上の取引、インターネット上の犯罪行為等。参加者の関心も高かった。

・セクハラ・パワハラ・モラハラ！当事者・被害者にならないために！

3/3 実施 参加 16 名

小林大晋弁護士をお招きし、最近何かと話題になることが多いハラスメントのうち特にセクハラ・パワハラ・モラハラについて、その概念や留意点などについて解説して頂いた。参加者の関心も高く、具体的な事例についての質問が多かった。

③ ファンドレイジングセミナー 1/28 実施 参加 12 名

NPO、市民活動に携わっている方、関心がある方を対象に「ファンドレイジングセミナー in 旭川 ～共感型の資金調達の基礎を学ぶ～」を開催した。

④ どうしたらいい？インボイスセミナー 3/26 実施 参加 14 名

佐藤はるみ税理士をお招きし、今年の 10 月から導入されるインボイス制度について制度の概略、免税事業者の場合の準備、NPO 法人とインボイスの関係について説明していただいた。

6) 交流および協働の促進について

① 北彩都ごみゼロ大作戦 4/17 実施 参加 45 名

コロナ感染に留意しながら、規模を縮小して実施することとなった。CoCoDe 職員と CoCoDe の利用者に協力いただき約 1 時間、周辺の清掃を行った。事業を通して参加された利用者との交流が促進された。

② CoCoDe こどもの日スタンプラリー 5/5 実施 参加 102 名

昨年度新型コロナ感染拡大で中止されたキッズワールドの代わりに完全予約制で実施された。十分に新型コロナ感染拡大予防対策、リスク対策が施された他、アンケート結果を見ても、参加者の満足度が高いものとなった。

③ キャンドルナイト 6/18 実施 参加 40 名

今回は、ホールでのイベントではなく、交流展示コーナーでリサイクル市を行った。夜にいつもより少ないが、キャンドルの点灯も行った。

④ 市民活動見本市 7/31 実施 参加 800 名

旭川市と共催で、8 月 1 日の市民の日に関する情報発信の場とするとともに、市民活動の交流・発表の場としてイベントを実施した。800 名の参加があり、市民の日を周知し、市民活動を知ってもらう一定の成果があったと思われる。

⑤ 北海道 NPO 対話プロジェクト in 旭川 9/3 実施 参加 16 名

全道で NPO 等非営利セクターの活動に見直しの気運が高まっている。今回の WS はその第一弾で旭川で開催された。お互いの活動や得意なことを出し合い、お互いが効果的に協業できる可能性について話し合った。

⑥ 秋の CoCoDe まつり 11/3 実施 参加 400 名

毎年恒例の文化の日に行うイベント「秋の CoCoDe まつり」を縮小サイズで行った。

⑦ クリスマスキャンドルナイト 12/10 実施 参加 60 名

電気を消して、スローな夜を過ごそうをスローガンにキャンドルナイトを開催した。ステージイベントでは、3組のステージ出演があった。

リサイクルギフトは、古着や古本、雑貨など無料でお持ち帰りいただいた。

自主事業等について

① ココデカフェの営業

施設利用者の利便性とサービス向上を目的に、6月18日より11月3日までの計82日間、共用ロビーにおいて飲食の提供をしました。リピーターの方もいらっしゃったが、まだ、広報不足の面もあるので、今後より一層の広報に努めます。

■事業名（旭川市及び周辺8町委託事業）

ファミリーサポートセンター事業

・上川中部こども緊急さぼねっと事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また1市8町(本年度から美瑛町が加入)から受託した「上川中部こども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、病児・病後児の預かり、臨時的・突発的なニーズに予め登録している地域の人が子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



子育て支援者養成講座

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

1) 会員の募集、登録業務

2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報

新型コロナウイルス感染予防のため、周知広報は縮小され母子保健課乳幼児4か月健診時の対面事業説明は令和2年から3年間禁止となっている。

3) 子育て支援者養成講座実施（「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座）

前期子育て支援者養成講座

日 程：5月23日.25日.27日.30日.6月1日.3日

講座数：13講座、25時間

参加者：16名（町職員1名参加）

後期子育て支援者養成講座

日程：10月8日・12日・13日・18日・19日・21日

講座数：13講座、25時間

参加者：11名（町職員5名参加）

- 4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整
- 5) 依頼時の相互援助の連絡調整
- 6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっと合同研修）
 - ①1回目 日時：令和4年8月22日（月） 参加者：17名
講師：日本赤十字社幼児安全指導員 田中 久子氏
内容：救命救急
 - ②2回目 日時：令和4年12月13日（火） 参加者：27名
内容：「わらべうた 手あそび」
講師：山下 真実氏 幼保連携型認定こども園末広こまどり園長
- 7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施
- 9) 提供会員のレベルアップ講習会中止（「上川中部子ども緊急さぼねっと」合同研修会併用）
- 10) 月毎に市へ報告及び助成請求
- 11) 年1回通信「育輪」発行

【事業成果・課題】

- 1) 会員数 依頼会員：1,540名 提供会員：210名 両方会員：41名

総会員数 1,791名

- 2) 依頼総件数 1,722件（キャンセル 46件）

援助総件数 1,676件（R3年度 1,549件）

① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	469件	⑦ 子供の習い事等の場合の援助	349件
② 保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	404件	⑧ 保育所・学校等の休み時の援助	16件
③ 学童の登校前の預かり及び送り	73件	⑨ 冠婚葬祭や他の子どもの	
④ 学童の放課後の迎え及び帰宅後の預かり	46件	学校行事の場合の援助	0件
⑤ 学童保育前の預かり及び送り	29件	⑩ 保護者等の外出の場合の援助	36件
⑥ 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	33件	⑪ その他	173件

◎上川中部子ども緊急さぼねっと

【事業内容】

- 1) 会員の募集、登録業務（1市8町）
- 2) 2)3)5)6)7)9)10)11)はファミリーサポートセンター「育児型」合同事業内容
- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員登録及び更新手続業務
- 8) 月1回「すりーAの会」実施（開催日不定）

開催：4回（研修会、意見交流会等） 参加者 24名

【事業成果・課題等】

- 1) 会員数 利用会員：1,654名 スタッフ会員：193名

総会員数 1,847名

2) 依頼総件数	1,547 件	(キャンセル 269 件)
<u>コーディネート件数</u>	<u>1,278 件</u>	(前年度 1,291 件)
病気預かり	181 件	宿泊 12 件
元気預かり	971 件	送迎 114 件

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま 3 年が経過した。親御さんも慣れてきたのか預かりの依頼も増加傾向にある。

また、子育て支援者養成講座が再開されたことで支援者の登録者が増えることを期待したい。今後も周知活動も含め、子育て世代に安心安全なサポートが提供できるよう努めていきたいと考えている。

■事業名 (旭川市委託事業)
旭川市母子家庭等日常生活支援事業
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

- ① 会員数 利用会員登録：31 名 家庭生活支援員：12 名 子育て支援員：37 名
- ② 利用状況 生活支援 301 件 (前年度 197 件) 子育て支援 67 件 (前年度 140 件)
利用合計 367 件

何かしらの疾患を抱えている方が多く、住居の清掃や食事の準備もできず生活環境が劣悪な状態となっており、生活支援や子育て支援を行っている。

また、父子家庭が生活環境の変化に中々ついていけず、利用が増えている。

■事業名 (旭川市委託事業)
子育て交流活動推進事業実施業務
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、それらの団体に対して活動の際の会場費の補助を行う。また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンに託児や、特技等でサポートを行う際のコーディネートを行い子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。

会場費補助 45件、17,550円

2) 育児サークルへの支援員の派遣 支援員派遣数16件 支援員派遣者数42件の派遣

3) 育児サークル合同イベント（わんぱくフェス）中止

4) 育児サークル事業説明会中止

5) 育児サロン事業説明会 日時6月14日（火） 参加者：16名

6) 子育てサロンへの支援

会場費補助 47件、60,000円

支援員派遣数 1件、支援員派遣者数 1名

7) 子育てサロン意見交換会 日時11月11日（金） 参加者14名

8) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

支援員派遣数 36件、支援員派遣者数 79件

9) 子育て人材バンクの登録 81名

10) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満3歳で幼稚園入園可能なこともあり、解散に至ったサークルがあった。親御さんにとって、現にある育児サークルが魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。

子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたいと思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催が激減し、主催者に残念な想いの年となった。

- 事業名 (社団法人北海道医師会)
北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業
■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師

等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぼねつとに準ずる。

登録医師	17名
利用件数	146件
利用時間	311時間

登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの利用券を使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整っている。

■事業名 産前・産後ケア

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

赤ちゃんとの対面で喜び、楽しいはずの出産が、出産後に情緒不安定、不眠、不安、ふさぎ込む、注意散漫、イライラ等、産後うつになっていく母親が少なからずいる。核家族化が進み、希薄な人間関係の中、母親自身の経験不足などで出産・育児が辛いものになってきている。育児支援を実施している中で、産前産後、不安でいっぱい母親へ寄り添う支援の必要性を感じてきた。子育て経験者である支援者だからできるお手伝いによって、そうした母親への自信回復の一助となることを目的とする。

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

妊娠・出産により精神的に不安定になりやすい時期の家事をサポートする事業。掃除・洗濯・買い物・調理の下準備等を緊急さぼねつとの登録スタッフの中から、産前・産後ケア事業に登録した方が訪問している。

依頼件数 1件 時間数 1時間 スタッフ 17名

転勤族の方や、祖父母がいても仕事をしているなど昔のように頼れる人も少なく、スタッフは感謝されている。また、里帰り出産時の依頼も受け入れている。

■事業名 (旭川市委託事業)

旭川市産前・産後ヘルパー事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

ヘルパー事業は妊娠中及び出産後、母親の体調不良等のため、家事や育児の援助を必要とする家庭にヘルパーが支援を実施することにより、子育て家庭の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

- 1) 旭川市産前・産後ヘルパー事業従事者向け事業説明会及び研修会
日 時：令和4年11月17日（木）10:00～12:00 参加者 23名
参加者：14名
- 2) 利用の申込みを受付け、事業説明
- 3) 初回時面談（聞き取り）
- 4) サービス実施、自己負担額の徴収（500円）
- 5) 月毎に実施報告及び委託料請求

【事業成果・課題】

1回の出産につき、産前から1歳の誕生日までの期間に20回（多児の場合40回）家事や育児に関することで利用が可能である。希望する事業所に申込みをして家事や育児の支援をもらう仕組みである。

利用人数：152名 利用延べ回数：363回

妊娠中及び出産後、母親は体調不良等から身体的・精神的に不安定になりやすい。当初周知広報の遅れもあり、利用人数が少ないと感じていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防中、自宅に人を招くことを躊躇するところもあったが、受け入れてもらったところでは母親に寄り添った支援をするので、もう少し早くから利用すると良かったとの声を聞くとヘルパー従事者は感激していた。

■事業名 こども食堂開設

■4月～9月(赤い羽根共同募金助成)

■NPO法人旭川 NPO サポートセンター



コロナ禍で、学校が休校になったり、外出自粛のため、なかなか外に出掛けられない親子のため「食と学びで子どもを支える子ども食堂」を開設しました。コロナ感染防止のため、お弁当の配布にするなど、工夫して開催しました。また夏休み期間中はピアノコンサートとのジョイントや毎週の開催にするなど、子どもや親の居場所の役割も担うことができたと思います。

【事業期間】

令和4年4月～令和5年6月

【事業内容】

実施回数：4月23日、5月21日、6月11日、7月9日、7月30日、8月6日、8月13日
8月20日、9月3日、10月22日 11月19日、12月10日、1月5日、2月18日、
3月18日 計15回

実施時間：11：00～13：00

参加者数：延 519 名

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

【成果】

感染リスクを抑えるために、予約制にしたり、お弁当の配布にしたり、工夫しながらの開催でした。子どもたちは学生ボランティアとの学びや遊びを通して異世代交流を楽しんだり、親同士は情報交換の場になる等、リフレッシュできる環境の提供を行うことができました。

■事業名 北海道未来社会システム創造事業
空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業

■助成金事業

8 空きがいの
経済成長も



【目的】

全国的にも問題となっている空き家の増加に伴う様々な課題を、引きこもりなど生活困窮者に担っていただき、自立を促していくという目的で、休眠預金を活用した3年間の助成金事業の最終年となりました。周知されてきたこともあり、リピーターからのご依頼も多くありました。

【事業期間】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【内容】

空き家整理事業に登録する20代～60代までの生活困窮者が約40名おり、この方たちに空き家整理や、空家管理、草刈り、清掃、除雪などの作業を実施してもらいました。

相談受付数：延 55 件 うち依頼数 37 件

参加人数：29 名、延作業日数 206 人/日、延べ作業時間 544.5 時間

【成果と課題】

3年間の事業を通し、参加している生活困窮者の中から8名が就労に結び付きました。2名は福祉的就労、4名はパート就労、2名は常勤として、新たな環境にステップアップしていきました。他の方も作業の回を重ねるごとに、コミュニケーション能力が高まったり、作業の分担を自ら考えて動くようになるなど、自発的、意欲的に和気あいあいと作業に取り組む姿が見られるようになってきました。

■事業名

JR 宗谷線車内販売事業(主催:旭川市・旭川物産協会)

■協力事業

11 住み続けられる
まちづくりを



【目的】JR 宗谷線周辺地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化やJRの利用促進、魅力アップを図る。昨年に引き続き今年度もコロナ感染拡大のため中止。

■事業名

ひとり親家庭への食料宅配事業及び学習支援

■助成金事業



- (1) しんぐるまざあず・ふぉーらむ助成金事業「だいじょうぶだよ！基金」第4次助成
- (2) 同第5次助成
- (3) 令和4年度厚生労働省「ひとり親家庭等の子ども等への緊急食糧等支援事業」
- (4) 同延長・追加分

【目的】

コロナ禍で、就業時間短縮や雇い止めなどで収入が減り、困窮するひとり親家庭へ食料等を支援するため、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ助成金及び同団体が中間支援団体として受託した厚労省補助金に申請・受託されたので、支援活動を行いました。

【事業期間】

- (1) 令和4年4月1日～令和4年9月30日
- (2) 令和4年11月1日～令和5年5月31日
- (3) 令和4年7月1日～令和4年9月30日
- (4) 令和4年11月1日～令和5年1月31日

【事業内容】

(1) 実施時期：令和4年4月～令和5年5月（全助成事業を通して）

支援家庭（延数）・人数（延数）：505世帯・1,358人（親も含む）

実施方法：食材の無料支援と無料宅配、希望世帯へ対面型の学習支援及び学用品の無償配布

【成果】

広く告知はしていないが助成金範囲内で、応募されたひとり親家庭に食べ物を届けることが出来て、今年度は更に学用品の無償配布も行い親子から喜ばれた。

更にアンケートでは、困窮状況が凡そ分かり令和5年度の助成事業に活かしていきたい。

今後の課題としては、助成金頼りの事業であるため、助成金に頼らない支援方法を他団体と共に検討・調査をしていく。

■事業名

北の国災害サポートチーム協力事業

■協力事業



【目的】

旭川NPOサポートセンターが幹事団体として参加している北の国災害サポートチーム（通称きたサポ）は、札幌／函館／室蘭／釧路の中間支援団体と災害支援を担う各種専門団体からなり、多様な主体間の連携強化に向けた平時からのネットワーク構築支援や、企業・NPO等による支援力の強化を目的とした活動を行っています。10月7日には「技術系研修会～バックホーに乗ってみよう～」、10月24日には「これからの災害支援を考える北海道フォーラム」を開催いたしました。

【内容】

令和4年度は6月に石狩市のフィールドグッドフェスで実施された技術研修会に視察目的で参加、10月7日に当麻町の北央貨物運輸株式会社様の協力を得て「技術系研修会～バックホーに乗ってみよう～」を開催しました。9月22日は持込企画ではございましたが、「風水害24」という研修を実施、翌23日はイオンモール釧路で開催された「ひがし北海道防災スクール2022in釧路」に参加しました。10月24日には札幌市コンベンションセンターをメイン会場に、釧路／室蘭／旭川／函館の4会場をサテライト会場としてオンラインでつなぎ、第3回目となる「これからの災害支援を考える北海道フォーラム」を開催し、旭川での災害への取組について紹介しました。全会場では参加95名、旭川会場は参加13名になる規模の大きいイベントでした。



■事業名

New Project 農福連携事業

■旭川NPOサポートセンター

【目的】

今年、障がい者や生活困窮者の働く場の選択を広げるために、農業に参入するための準備を始めました。

【内容】

実施時期：5月～11月

西神楽千代ヶ岡の近くにある、土地の一角を借りて、農作物の植え付けから収穫までを、主に生活困窮者の方に担っていただき、収穫した野菜等はNPO法人ひだまりの会に買い取りをしていただきました。次年度は、今年度の失敗を踏まえて、チャレンジをしていきたいと思います。

【成果と課題】

鹿やアライグマなどの害獣により、植え付けした作物がほとんど収穫できない物もあった一方、キュウリやズッキーニ、トマトなど収量が多い作物もありました。